

令和7年度 学校自己評価システムシート (さいたま市立 西原 小学校) 学校番号 099

【様式】

| | |
|--------|--|
| 学校教育目標 | 「かしこく (Growth、知性、確かな学力)、やさしく (Global、感情、豊かな心)、たくましく (Grit、意志、健やかな体)」 |
| 目指す学校像 | 「学び」でゆるやかにつながる「みんなの学校」～多様性と包摂性、それを支える寛容性の実現～ |

| | |
|------|---|
| 重点目標 | 1 教育DXを活用した「自立した学習者」の育成 2 生徒指導、教育相談、特別支援体制の充実による「誰一人取り残されない教育」の推進 3 学校運営協議会とSSNを核とした地域とともにある学校づくりの推進 4 安心・安全な教育環境の整備。 5 教職員のキャリアアップと働き方改革の推進により、やりがいと意欲をもって職務に当たれる職場づくり |
|------|---|

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| | | |
|-----|---|--------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成 (8割以上) |
| | B | 概ね達成 (6割以上) |
| | C | 変化の兆し (4割以上) |
| | D | 不十分 (4割未満) |

| | | 学 校 自 己 評 価 | | | | 学校運営協議会による評価 | |
|---------------------|-------|------------------------------------|---|--|---|--------------|--|
| | | 年 度 目 標 | | 年 度 評 価 | | 実施日令和8年2月13日 | |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 |
| 学びの質の向上に関する取組 | 1 | ・教育DXの活用による学力の向上 ・ICTの積極的な活用 | ①学びのポイント「じ・し・や・く」を軸にした授業展開を行う。 ②教育委員会から指導者を招聘し、学校課題研修の方向性や手立てについて指導、助言をいただく。 ③年間を通して、1人1回の授業公開を行い、管理職から指導・助言を行う。 | ・学校評価アンケートの「学習について」における項目で否定的・やや否定的な意見を昨年度より減少できたか。 児童 (R6:19.2%→R7:18%) 保護者 (R6:11.9%→R7:10%) ・学びの指標アンケートにおける「主体的な学び」についての項目で1回目よりも2回目の数値を向上させることができたか。 | ①学校評価アンケートの「学習について」における項目で否定的・やや否定的な意見については、児童は4ポイント向上し、目標値を2.8ポイント上回った。(R6:19.2%→R7:15.2%) 保護者は、3.7ポイント増加し、目標値には、5.6ポイント届かなかった。(R6:11.9%→R7:15.6%) ②学びの指標アンケートにおける「主体的な学び」については、1回目が3.30で2回目が3.34となり、0.04ポイント向上した。 ①、②から概ね目標を達成した。 | B | ・学習においては、個別最適な学習や協働的な学習、自由進度学習などを取り入れたことで児童の学習意欲の向上が見られたが保護者への周知ができていなかったため、次年度は授業参観や学校公開等を通して保護者や地域に向けて積極的に情報を発信していきたい。 ・次年度は、年間を通して1人2回の授業公開を行い、管理職だけでなく教職員がお互いに授業を見合う機会をさらに確保していきたい。 ・今年度は教育委員会より指導者を招聘する時期が2学期末と遅くなってしまったので、来年度は1学期～2学期の早い時期にしたい。 |
| | | ・児童一人ひとりの実態の把握と生徒指導、教育相談、特別支援体制の充実 | ①スクールダッシュボード、Microsoft Teams、ミライシードを活用した指導を実施する。 ②教職員の「ICT」の研修を行う。 | ・学校評価アンケートの「タブレットの活用」における項目で肯定的な意見を昨年度より増加できたか。 児童 (R6:64.2%→R7:65%) 保護者 (R6:36.3%→R7:38%) | ①学校評価アンケートの「タブレットの活用」における項目で肯定的な意見は、児童は、1.3ポイント向上したが、目標値には0.5ポイント届かなかった。(R6:64.2%→R7:64.5%) 保護者は、3.1ポイント減少した。目標値には、4.8ポイント届かなかった。(R6:36.3%→R7:33.2%) 以上のことから概ね目標を達成した。 | B | ・児童にとっては、タブレットの活用は非常に身近なものになっており、ほぼすべての授業で活用しているが、タブレットを学習以外の目的で使用している様子が見られる。タブレット利用のルールを徹底していきたい。また児童用の端末も新しく入れ替わるため、教職員のICT研修をしっかりと位置付けて積極的に活用できるようにしていきたい。 |
| 子どもの発達や心をサポートに関する取組 | 2 | ・児童一人ひとりの実態の把握と生徒指導、教育相談、特別支援体制の充実 | ①目白大学と連携し、リハ専門職によるサポート及び教育相談を実施する。 ②特別支援教育ネットワーク連携協議会やさいたま市教育委員会から指導者を招聘し、指導・助言をいただく。 ③スクールロイヤーによるいじめ防止特別授業を実施する。また、保護者にも公開する。 | ・学校評価アンケートの「いじめの認識」における項目で肯定的な意見を昨年度より増加できたか。 児童 (R6:80.5%→R7:82%) 保護者 (R6:46.1%→R7:48%) ・学校評価アンケート(保護者)および(児童)の「相談相手について」における項目で否定的・やや否定的な意見を昨年度より減少できたか。 児童 (R6:5.5%→R7:5%) 保護者 (R6:7.4%→R7:7%) | ①学校評価アンケートの「いじめの認識」における項目で肯定的な意見は、児童は、4.4ポイント向上し、目標値を2.4ポイント上回った。(R6:80.5%→R7:84.9%) 保護者は、1.7ポイント向上したが、目標値には0.2ポイント届かなかった。(R6:46.1%→R7:47.8%) ②学校評価アンケートの「相談相手について」における該当項目は、児童は、0.9ポイント向上したが、目標値には1.1ポイント届かなかった。(R6:5.5%→R7:6.4%) 保護者は1.3ポイント増加し、目標値を1ポイント上回った。(R6:7.4%→R7:8.7%) ①、②から概ね目標を達成した。 | B | ・6年生を対象にスクールロイヤーによるいじめ防止特別授業を実施したり、教職員向けにさいたま市教育委員会主催による校内研修、中学校と合同でスクールロイヤーを招聘した研修を実施したりしたことで組織的な対応、プロアクティブな生徒指導について学ぶことができた。来年度も継続していきたい。 ・目白大学との連携をさらに進め、授業にもかかわっていたり、専門的な見地から児童を支援するなど教育相談体制や特別支援体制をさらに整えていきたい。 ・オアシスルーム(sola るーむ)を利用する児童も多様化している。個々のニーズを尊重しながら部屋を利用する子どもたちがお互いに過ごしやすいように、SCやSSW、関係機関等と連携していきたい。また、引き続き地域ボランティア等も含めた支援体制を整備していきたい。 |
| | | ・コミュニケーションルームの活用と地域との連携 | ①コミュニティルームについて地域関係者に周知する。 ②学校の状況を定期的にホームページに更新し、情報発信する。 ③小・中合同研修会および小・中相互の授業公開を行う。 ④地域への関心を高めるため、学校運営協議会や避難所運営訓練に児童を参加させる。 ⑤地域の行事について児童に周知する。 | ・学校評価アンケートの「郷土愛」における項目で否定的・やや否定的な意見を昨年度より減少できたか。 児童 (R6:6.8%→R7:5%) 保護者 (R6:28.4%→R7:27%) ・学校運営協議会委員へのアンケートにおける該当項目において肯定的・やや肯定的な回答の割合が85%とすることができたか。 ・学校の状況を学校ホームページで情報発信することができたか。 | ①学校評価アンケートの「郷土愛」における項目で否定的・やや否定的な意見は、児童は、4.1ポイント向上し、目標値を2.3ポイント上回った。(R6:6.8%→R7:2.7%) 保護者は、2.4ポイント向上し、目標値を1ポイント上回った。(R6:28.4%→26%) ②学校の状況を学校ホームページにほぼ毎日掲載することができた。 ①、②から概ね目標を達成した。 | B | ・避難所運営訓練に児童が参加することができた。次年度はより多くの児童が参加できるようさらに周知したり、参加したいと思えるような内容を検討していきたい。 ・コミュニケーションルームの利用数は年々増加しているが、地域との関わりはメンバーが固定化している。地域交流をより進めていきたい。 ・子どもたちと地域との交流を目的としたフェスティバルを実施した。来年度は学校運営協議会を主体として実施していきたいよう関係各所とさらに連携を図っていきたい。 |
| 地域とともにある学校づくりに関する取組 | 3 | ・安心・安全な教育環境の整備 | ①安全点検(毎月)および校内巡視(毎日)の確実な実施を行う。 ②教材教具、備品の管理補充等を適切に行うための身に審査会を実施し、予算の確実な執行を行う。 | ・学校評価アンケートにおける「教育環境の整備」についての項目で肯定的・やや肯定的な意見を80%以上とすることができたか。(新規項目) ・学校配当予算における「備品費・消耗品費」の執行率95%以上とすることができたか。 | ①学校評価アンケートにおける「教育環境の整備」についての肯定的・やや肯定的な意見は、92.5%であり、目標値を12.5ポイント上回った。 ②学校配当予算における「備品費・消耗品費」の執行率は平均96%であった。 ①、②からほぼ目標を達成した。 | A | ・安全点検を確実に実施し、指摘箇所の修繕を行ってきたが、施設の老朽化もあり予算上対応が難しい箇所がある。今後も中長期的な計画を立て教育環境を整備していきたい。 ・体育館の修繕については、市にも積極的な働きかけをしていくのがよいのではないか。 ・学童の設置については、校庭開放団体やチャレンジスクールとも連携を図ってけるとよい。 |
| | | ・コミュニケーションルームの活用と地域との連携 | ①安全点検(毎月)および校内巡視(毎日)の確実な実施を行う。 ②教材教具、備品の管理補充等を適切に行うための身に審査会を実施し、予算の確実な執行を行う。 | ・学校評価アンケート(教職員)における「働きがいや職場環境」についての項目で肯定的・やや肯定的な意見を80%以上とすることができたか。(新規項目) ・教職員の自己評価シートにおける「研修」の項目においてB評価以上を達成することができたか。 | ①学校評価アンケートにおける「働きがいや職場環境」についての項目で肯定的・やや肯定的な意見は、100%であり、目標値を20ポイント上回った。 ②教職員の自己評価シートにおける「研修」の項目においてすべての教職員でB評価以上を達成することができた。 ①、②からほぼ目標を達成した。 | A | ・教職員の1か月の時間外在校時間の平均は3.3時間と働き方改革が進んできている。次年度も教職員個々のwell-beingに向けて定期的に対話を行い、職場環境の改善に努めていきたい。 ・ミドルリーダーを育成すべく、次年度では、キャリア段階に応じた役割や活躍の機会を計画的に用意している。 |
| 教育環境の整備に関する取組 | 4 | ・安心・安全な教育環境の整備 | ①当初面談による中長期的な目標や希望する研修・役割の確認を行う。 ②キャリア段階に応じた役割や活躍の機会を用意し、定期的に振り返りと管理職との対話を行い、達成状況の確認を行う。 ③OJTの機会を奨励する。 | ・学校評価アンケート(教職員)における「働きがいや職場環境」についての項目で肯定的・やや肯定的な意見を80%以上とすることができたか。(新規項目) ・教職員の自己評価シートにおける「研修」の項目においてB評価以上を達成することができたか。 | ①学校評価アンケートにおける「働きがいや職場環境」についての項目で肯定的・やや肯定的な意見は、100%であり、目標値を20ポイント上回った。 ②教職員の自己評価シートにおける「研修」の項目においてすべての教職員でB評価以上を達成することができた。 ①、②からほぼ目標を達成した。 | A | ・安全点検を確実に実施し、指摘箇所の修繕を行ってきたが、施設の老朽化もあり予算上対応が難しい箇所がある。今後も中長期的な計画を立て教育環境を整備していきたい。 ・体育館の修繕については、市にも積極的な働きかけをしていくのがよいのではないか。 ・学童の設置については、校庭開放団体やチャレンジスクールとも連携を図ってけるとよい。 |
| | | ・コミュニケーションルームの活用と地域との連携 | ①安全点検(毎月)および校内巡視(毎日)の確実な実施を行う。 ②教材教具、備品の管理補充等を適切に行うための身に審査会を実施し、予算の確実な執行を行う。 | ・学校評価アンケート(教職員)における「働きがいや職場環境」についての項目で肯定的・やや肯定的な意見を80%以上とすることができたか。(新規項目) ・教職員の自己評価シートにおける「研修」の項目においてB評価以上を達成することができたか。 | ①学校評価アンケートにおける「働きがいや職場環境」についての項目で肯定的・やや肯定的な意見は、100%であり、目標値を20ポイント上回った。 ②教職員の自己評価シートにおける「研修」の項目においてすべての教職員でB評価以上を達成することができた。 ①、②からほぼ目標を達成した。 | A | ・安全点検を確実に実施し、指摘箇所の修繕を行ってきたが、施設の老朽化もあり予算上対応が難しい箇所がある。今後も中長期的な計画を立て教育環境を整備していきたい。 ・体育館の修繕については、市にも積極的な働きかけをしていくのがよいのではないか。 ・学童の設置については、校庭開放団体やチャレンジスクールとも連携を図ってけるとよい。 |
| 教職員のキャリア形成に関する取組 | 5 | ・安心・安全な教育環境の整備 | ①当初面談による中長期的な目標や希望する研修・役割の確認を行う。 ②キャリア段階に応じた役割や活躍の機会を用意し、定期的に振り返りと管理職との対話を行い、達成状況の確認を行う。 ③OJTの機会を奨励する。 | ・学校評価アンケート(教職員)における「働きがいや職場環境」についての項目で肯定的・やや肯定的な意見を80%以上とすることができたか。(新規項目) ・教職員の自己評価シートにおける「研修」の項目においてB評価以上を達成することができたか。 | ①学校評価アンケートにおける「働きがいや職場環境」についての項目で肯定的・やや肯定的な意見は、100%であり、目標値を20ポイント上回った。 ②教職員の自己評価シートにおける「研修」の項目においてすべての教職員でB評価以上を達成することができた。 ①、②からほぼ目標を達成した。 | A | ・安全点検を確実に実施し、指摘箇所の修繕を行ってきたが、施設の老朽化もあり予算上対応が難しい箇所がある。今後も中長期的な計画を立て教育環境を整備していきたい。 ・体育館の修繕については、市にも積極的な働きかけをしていくのがよいのではないか。 ・学童の設置については、校庭開放団体やチャレンジスクールとも連携を図ってけるとよい。 |

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心をサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

